ブラサトルと巡る!

さっぽろ歴史旅

文化財や過去の面影が残る場所をブラサトルこと和田 哲(わだ さとる)さんと巡り、札幌の歴史や成り立ちを紹介します。

【第4回】

アンパン道路

「アンパン道路」の由来

明治44（1911）年に完成した、月寒地区と平岸地区をつなぐ約2・6㎞の道路。「当時、豊平町の役場が、平岸地区に近い豊平地区から月寒地区に移転したことで、平岸地区に住む人は役場が遠くなって困りました。そこで、陸軍の兵士の協力を得て、道路の建設が始まったんです」と和田さん。住民が兵士に感謝し、おやつとして1人につき1日5個のアンパンを配ったことで、自然とアンパン道路と呼ばれるようになりました。今でもアンパンは月寒の銘菓として親しまれています。

▼当時の月寒地区と平岸地区の境界があった、望月寒川の近くにある石碑

和田 哲さん（ブラサトル）

札幌市出身。広告代理店や出版社勤務を経て、札幌や北海道の歴史と地理を解説する街歩き研究家として独立。講演やテレビ・ラジオ出演などのほか、YouTube(ユーチューブ)で動画を配信中。

詳細 広報課 211-2036

▲「アンパン道路」と記された木材に囲われている電柱

▲「曲がりくねった道は歩いていて楽しい。曲がった先に何があるのかとわくわくします」と和田さんは案内してくれました

今も残る感謝の気持ち

「坂道が続くので、歩くのが大変です。現代なら、多少遠回りでも歩きやすい道路を造るかもしれませんが、当時はとにかく距離を短くしたかったのでしょうね」という和田さんのお話の通り、約4カ月で造られたこの道路は決して平たんではありません。

しかし、道中の看板や電柱には道路の名前が記されているほか、望月寒川(もちづきさむかわ)に向かって坂道を下ると「アンパン道路」と書かれたひときわ大きな石碑が。「看板や石碑が作られ、これほど愛されている道路は珍しいです」という和田さんの言葉からも分かるように、急な勾配にもかかわらず道路を造ってくれた兵士への感謝が、今も残っています。